

八王子地区保護司会だより



第 61 回社会を明るくする運動「中学生による音楽の集い」
石川中学校吹奏楽部による息の合った演奏風景

23 年度を迎えて

八王子地区保護司会

会長 大竹 通夫



初めに、先般の大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

皆様方には平素更生保護活動にご尽力いただき、また地区保護司会の活動にご指導、ご協力賜わり、厚く御礼申し上げます。

平成 21 年度に東京都より八王子市に委託され、また八王子市より地区保護司会に再委託されました「八王子市青少年立ち直り支援事業」も多くの関係団体との協力体制のもと素晴らしい成果を上げてまいりました。

東京都の事業として 3 年目の本年度が最終年となります。協働体制・ネットワークとともに定着してまいりましたこの時期にこのまま終了では大変残念に思っております。

つきましては八王子市の事業として是非継続し

ていただきますようお願いを致しているところでございます。何卒皆様方のお力添えをお願い致します。

また、地区保護司会事務所について大横福祉センター建て替え工事のため、移転を求められておりましたが、保護司で八王子市議会議員の先生方のご尽力で JR 八王子駅北口の八王子市生涯学習センター（クリエイトホール）地階、消費者センターと同じフロアに 9 月に移転できることが決定いたしました。

大横福祉センターよりいくぶん手狭になりますが八王子市の玄関の北口に事務所ができますことは保護司の皆様の活動拠点としてはもちろんのこと、幅広く活動されている各団体との連携がより進むものと確信いたしております。

おわりに、皆様方のご健勝・ご多幸を祈念いたしますとともに今後のご協力をお願ひいたします。新年度の挨拶とさせていただきます。

震災後思ったこと雑感

統括保護観察官 前川 洋



東日本大震災は、東北から関東にかけての太平洋沿岸に未曾有の被害をもたらしました。

加えて、原子力発電所の事故、世相に少なからず不安感が漂っています。将来にわたり続くのでしょうか。

震災により普段は感じていなかった数多くのことをあらためて感じる機会ともなりました。

例えば、普段はテレビや新聞のニュースなど見向きもしなかった我が家子供達が、テレビから流れる映像を注視している。不安げな面持ちで、将来に対する不安、少なからず心の中にストレスを抱えているのかなといった光景に遭遇しました。すぐには親子の会話が弾まなくとも声をかけ

話することで子供のストレスの解消にはなった様子でした。

今回の惨禍に対しても「共助の精神」を發揮して様々な支援活動を行う姿が、海外からも賞賛を受けましたが、この「共助の精神」は更生保護そのものではないでしょうか。つまり、弱い立場の人や困っている人へ手をさしのべる思いやりと助け合いの精神です。

我々更生保護に携わる者が対峙する対象者、人一倍不安を抱えながら社会復帰しようとする者は、今、さらなるストレスを抱えながら生活をしているのではないでしょうか。そこで、あらためて、まずは対象者の話を笑顔で今一度良く聞くことを心がけてみましょう。また、折しも、社会を明るくする運動が実施されました。地域社会の中で様々な人と笑顔で対話をしてみましょう。それが、今、我々に求められていることではないでしょうか。

保護司が見た被災地

中央分区 両角 穂

東日本大震災で被災をされた方々に心からのお見舞いを申しあげます。

さて、私は去る5月21日から9日間程、石巻、女川、東松島、仙台、南三陸、気仙沼、陸前高田、相馬、福島と被災地を回ってきました。

石巻の避難所で炊き出しを手伝い、南三陸町では車中泊を重ねてボランティア活動を、原発事故の不安を抱える相馬市と福島市に旧友を訪ねました。車の走行距離は2,187kmになりました。

民家のガレキ撤去は結構な重労働で防塵マスクとゴム長靴・ゴム手袋での作業はあつという間に汗だらけです。倒壊した家に残る写真の修復は、家族そろっての記念日や結婚式の写真などを刷毛で修復するもので、写真の方々が無事でいるだろ

うか厳肅な気持ちになる作業がありました。

沿岸の津波被災地はどこも空爆を受けた後の戦場のようで、壊滅した町が延々と広がっています。車で走行していると、そうした地域と被害を免れたところがハッキリと交互に現れます。

壊滅した、かつての町の中心で活況を呈していただろう港に立つと、生活音が全く無く、風と潮騒の中、時だけが過ぎていきます。倒壊したビルと横倒しの列車。潮と生ゴミと油の混じった強烈な臭いが鼻をつき、ガレキの上にはカラスが群れをつくっています。

すでに震災から3か月以上を経ましたが、被災地域はまだ戦場のような状況です。そして、今も多くの方々が不自由な避難所暮らしを続けています。このたびのボランティア活動を通し、改めて、普通の生活ができるとのありがたさを痛感しましたが、この感謝の念を胸に、微力ながらも復興に向け何らかの力になればと思っています。

義援金について

東日本大震災への義援金は、八王子地区保護司会124名の方々から15万2,170円が寄せられました。
ご協力ありがとうございました。

(八王子地区保護司会)

処遇について

～処遇上感じた事～

主任保護観察官 宇田 紀之



保護観察は、本人との接触によって生活状況を把握することを基本としており、保護観察を実施する意味において来訪、または呼び出しに応じることはとても大切なことです。

しかし、保護観察を言渡されたにもかかわらず、規範意識を改めることなくこれらの約束を守れない対象者がいるのも確かです。言い換れば、来訪等がしっかりできている対象者は、ある程度の規範意識が備わってきていているとして評価できると言えます。

来訪等が滞った対象者の原因はさまざまかと思いますが、その対象者に対して接觸を試み、指導し、軌道を修正していく中で、本人に対して保護観察を行う側の真意が伝わらなかったとき残念な思いを感じさせられます。

～事例紹介～

主任保護観察官 富永 恵子



「相手を変えるのはなかなか難しいですから、自分の行動を変えてみませんか。」これは、私が少年や保護者に対して時々使う言葉です。

子の行状の悪さを訴え、保護観察がついているのだから何とかしろ、と要求する親。観察官をもコントロールし自分が望む結果を得たいのだと思います。親心を汲みつつ、効果のないことはやめて違う方法を試してみたらどうかな…と、ささやかなアプローチをしてみます。

一方、自分の行動を棚上げして親に反発する少年。あなたの方が若くて脳みそが柔らかいのだから、あなたが変わりましょう、とおだててみます。そうは言っても、人の行動や考えを変えることは本当に難しいです。ご本人たちに、あれ、何か違うかな、と気づいてもらえるような働きかけをしていきたいと日々考えています。

～就労意欲の乏しい対象者への就労指導～

保護観察官 高井 文香



就労指導の中で感じた思いをひとつ。中学卒業後に進学をしなかったり、高校を中途退学したりした少年には、就労するように指導しますが、中には、ハローワークに連れて行っても、採用面接や雇用主との連絡をすっぽかなど、なかなか就労に結びつかない少年がいます。親もとで生活しているため、「学校に行かなければ働く」という概念や覚悟がない少年たちです。

そのような就労意欲の乏しい少年たちに対する「仕事をする」という動機付けは容易ではありません。過去に経験したアルバイトで得た喜びを思い出させたり、働くことで自分や家族にどのような影響があるかを考えさせたりしますが、なかなか重い腰はあがりません。

ある時、のらりくらりとハローワーク通いを続けていた少年から報告がありました。「ボク、本気で働きたい」。どうした風の吹き回しかと思ったら、「A ○○ 48 のカレンダーが欲しくて」とのこと。いつの間にか自分で仕事を見つけて就労を始めていました。案外、そんなものかもしれません（笑）。

着任のご挨拶

主任保護観察官 小川 義幸



この春の人事異動により、八王子地区保護司会みなみ分区を担当させていただいております。

どうぞよろしくお願いします。

私は、平成 11 年からの 4 年間、当時は八王子支部でしたが、支部で仕事をさせていただいた経験がありますので、9 年振りの支部勤務となります。

前任の保護観察官からは、「八王子地区の保護司さんは、みなさん処遇熱心ですよ！」と引継ぎを受けております。実際にこれまで経過報告書を拝見したり、電話や直接お会いしての会話の中で、保護司のみなさんの熱意を感じているところです。

私としても、八王子地区の更生保護のために少しでもお役に立てるよう努力させていただく所存ですので、今後のご指導、よろしくお願いします。



第61回 “社会を明るくする運動”

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

「社会を明るくする運動」も昭和 26 年に開始されて以来、今年で 61 回目を迎えました。

今年も昨年に引き続き、「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」をテーマに、当地区保護司会では、昨年同様、街頭啓発活動及び、作文コンテスト、音楽の集い等に取り組みました。

街頭啓発活動は、7 月 1 日八王子市内 JR、私鉄各 8 駅、11 箇所の駅頭において一斉に行いました。

JR 八王子駅北口においては、八王子地区実施委員会委員長である黒須八王子市長も率先して、啓発グッズを配りながら本運動の PR に努めました。

そして、各駅々頭においては、私達保護司の他、BBS 会員、更生保護女性会、民生児童委員、母の会の皆様など多くの参加を得て、梅雨の最中の蒸し暑い陽気のなか、汗をぬぐいながら、声高らかに本運動の趣旨を訴え、文字通り“地域のチカラ”をもって、犯罪や非行の無い社会の地域づくりに貢献しました。

本運動に参加された皆様、本当にお疲れ様でした。

さらに、7 月 18 日（月）いちょうホールにて“みんなに届け！私たちのメッセージ”と題した、社会を明るくする運動作文コンテスト表彰式及び発表会が開催されました。

入賞者は、

八王子市実施委員会最優秀賞

楠瀬 裕子さん

八王子市実施委員会優秀賞

吉野 朱莉さん・小島マリリンももこさん

堅口まりえさん・堀岡 美緒さん

伊藤佑花子さん

以上の 6 名で、黒須市長から表彰され、受賞者皆さんから入賞した作文の発表がありました。

ボランティア活動、声かけ、きれいなまちづくり、親子の会話、心と心のつながりの大切さ等々、小・中学生から大人の社会をよく見た素晴らしい発表内容に、会場の皆さんも真剣、真面目に聞き入っていました。





第 30 回多摩地区更生保護事業 関係者 頌彰式典

7 月 8 日（金）午後 2 時より立川第二法務総合庁舎において、「多摩地区保護司会連絡協議会設立 50 周年記念」平成 23 年度「社会を明るくする運動の一環として、標記の記念式典が開催されました。

八王子地区受彰関係者（順不同・敬称略）

☆保護司

大石 創元	佐藤 順一	塚本 富男
本吉 邦俊	名取 雄三	八木 光司

☆更生保護女性会

村川 英子	永井 洋子	小林 淳子
-------	-------	-------

☆BBS 会員

山本 幸恵	瓜生 千春	藤垣 麻里
佐合 由香	塩川 涼太	



平成 23 年度定期総会

平成 23 年度、八王子地区保護司会定期総会が 5 月 13 日（金）午後 4 時より八王子エルシィに於いて開催されました。

総会次第に従い、議事では西分区の杉山氏・みなみ分区の本吉氏の議長で進行され、22 年度、事業報告と収支決算報告・会計監査報告・23 年度、事業計画（案）と収支予算（案）が審議され承認されました。役員改選では、会長に大竹通夫氏・副会長に内田實氏・廣瀬正夫氏が再選され、新たに副会長として永井信子氏・三橋正行氏が選出されました。

来賓として、黒須市長代理こども家庭部菊谷部長及び石川教育長他の祝辞があり無事終了いたしました。



副会長の抱負

これからの八王子地区保護司会

廣瀬 正夫



定期総会終了後、初めての常任理事会と理事会が開催され、「社会を明るくする運動」「青少年立ち直り支援事業」等が協議されました。

保護司会活動が複雑多様化する中で、これから保護司会の重要な課題は、「犯罪予防活動」、「研修活動」、「保護司の人材確保」、「収支決算様式の統一」等があります。保護司会は、社会情勢の変化に対応した組織運営をしていかなければなりません。

理事会の決議事項は、各分区単位で保護司会員に情報の伝達と共有化を図る必要があります。保護司会活動は、分区の自主研修を中心に、「保護司の意見交換」、「地域社会における地区懇談会や情報交換会」、「犯罪予防講演会」等に保護司一人ひとりが参加して、必要な知識や技術の修得をすることが大切です。保護司会活動に皆様の一層のご協力をお願いします。

取り組むべき課題

内田 實



八王子地区保護司会として取り組むべき課題は山積しております。

第一にはサポートセンターの招致が強く望まれます。当地区の更生保護活動のより充実と発展を図るために活動拠点として是非必要な施設だと考えます。

今年度は残念ながら当地区への設置は見送られましたが、来年度に向けて更なる働き掛けを続けて行くべきと考えます。

第二には新任保護司の発掘に力を注ぎたいと思います。対象者は過去数年減る傾向にありますが、平成20年の更生保護法の施行以降保護司の仕事が保護観察以外の犯罪予防活動や会務などの組織活動に費やす時間が増え、会員の負担が増える傾向にありますので、これらを解消する観点からも新人保護司の発掘に努力したいと思います。

「楽しく」をモットーに

永井 信子



本年度の定期総会で、副会長に選任されました。分に過ぎた大役に緊張の連続です。

地区保護司会は来年30周年を迎えます。「記念誌」の発行に当たり「保護司会だより第1号」から30年間の歴史を紐解いてみると、先達の更生保護活動に対する熱意が引き継がれて、今日の地区保護司会活動があるのが見えてきます。

更生を一字にすると「甦り」。人を甦らせるんです。「ありがとうございました」と言われた時のうれしさ、この喜びを感じる保護司のつとめ。と一龍齊貞花氏が“更生保護”1月号に述べていますが、こうした保護司の活動をこれからも円滑に遂行できるように、役員・会員の皆様と手を組んで、様々な課題に対応して行けるように、微力ではありますが努めていきたいと思っております。

会長が常に言われる「楽しく」をモットーに。

頑張ります。応援してください

三橋 正行



昭和51年、南多摩BBS会（現八王子BBS会）に入会し10年。多摩少年院訪問活動や、会員間のゲーム等の指導力向上に努めました。

保護司を拝命して18年目。様々な環境にあった対象者との出会いも41名になり、一人ひとりに熱い思い入れがあります。対象者すべてが“良好解除”とはいきませんでした。4名を不慮の事故で見送り、5名があちこちの少年院を渡り歩きました。初回の面接では、今も高揚した気分に浸ります。

先輩諸兄・諸姉氏のお導きで今まで大過なくこれました。今後は、ご恩返しのつもりで保護司会を盛り立てられるよう、微力を尽くしていきたいと考えています。遠慮のないご叱責をいただきながら、副会長という大役をこなしていく所存です。

頑張ります。応援してください。

学校と保護司

鴨田中学校生活指導主任 進藤 隆一

本校の子供達の更生を支援するために担当の保護司の方々と情報交換を行い、子供達の指導に役立てようと考えております。

情報交換会では子供達とのコミュニケーションのとり方、今後の生活に対してどう指導・助言するか等意見を出し合い、結果、子供の行動を褒めたり、叱ったりして論じていこうと努力しています。しかし、残念ながらきちんと改心し、やり直す意思を持つことが出来る子供達ばかりではありません。これは子供達のバックアップを学校だけで行うことには限界があるからです。

従って、情報交換会では、子供達の家庭環境についても話し合い、さらに地域での支援体制作りも考えています。このように学校と保護司との情報交換はとても大切です。子供達は、家庭・学

校・保護司の前で見せる顔が違い、それぞれがその一面だけを見て対応すると指導方法を見誤ることになりかねません。

家庭・学校・保護司の面接での様子等を踏まえて検討し、よく話し合い、総合的に判断して指導することが本人へのより良い支援につながります。本校では、保護司の方々と年 2 回（7 月・11 月）意見交換会を行っています。そこではお互が持つ情報や個別の現状・問題点等を出し合っています。その他、適宜個別に生徒のことについて意見交換をすることもあります。本人・保護者・担任・保護司の四者で話し合いを持ったものもありました。本校が保護司の方々と連携できる要因の一つは、青少対の会長が保護司で、普段からコミュニケーションがとり易く、他校と比べても密接な連携が取れているからです。これからも学校と保護司の方々と連携し、子供達の健全育成に役立てていこうと考えております。

対象者との関わり合いの中で —生活環境の大切さ—

東分区 平澤 東

4 号観察、20 歳の男子を見ることになった。もう “少年” でなく “成人” である。

面接で話してみると、まだ子どものような性格が残っている。顔もどこやらあどけない。

（仮に A 君と呼びます）事件調査票には、「罪名、窃盗、執行猶予は 2 年」である。窃盗をしたのは、主犯でなく共犯。「友人に誘われ、イヤだから断ったが暴力を振るわれ脅迫されて、怖くて仕方なく従った」と A 君は言った。

それでも窃盗の動機はしっかりとあり、ネットカフェで寝泊りする費用、飲食費を必要としての犯行だった。ここ半年の素行は無職でゲームセンターに入り浸り、家出をしてネットカフェに寝泊り、そんな環境で共犯者と知り合った。

唯一の家族、母親と仲良くできて家に居ればここまで来なかつたのに、と悔やまる。

幸い、ここで勤め先の寮に定住した。一昨日、私から往訪した。あちこちと泊まり歩かないよう見守ってあげたい。

新任の保護司紹介

平成 23 年 5 月 25 日発令



☆植田 典仁 みなみ分区

住所 北野町 98-9

保護観察係属性数

	保護観察	生活環境調整
東分区	3 4 (1 6)	3 0
中央分区	1 7 (9)	1 5
高尾分区	2 9 (2 0)	3 1
西分区	5 7 (4 8)	4 2
みなみ分区	4 5 (2 9)	3 0

※カッコ内は保護観察の少年

7 月 31 日現在（東京保護観察所立川支部）

シリーズ

保護司によるハ王子探訪

絹の道

みなみ分区 糸信 富雄

絹の道のある私達のみなみ分区は由木地区と由井地区を包含する地域です。由井から由木に至る鎧水峠の道は、安政 6 年に開港された神奈川港（横浜）に向けての輸出物資の運搬道として賑わったところです。

当時、八王子には四と八のつく日に市が開かれており、長野・山梨・群馬方面で生産された生糸や、埼玉で生産された茶などが集荷されていました。横浜港の外国商人は日本の生糸を大量に、し



かも国内相場の 2 ~ 4 倍の高値で買い付けたため（ヨーロッパにおける蚕病の流行とも、太平天国の乱により清国からの輸出が途絶えたとも言われています）生糸は横浜に向け潮のように流れ出ていきました。

八王子から横浜への物資の輸送路を「浜街道」とよんでいま



す。早くから鎧水の集落に着目していた郷土氏家の橋本義夫氏は、この道を「絹の道」とよび昭和 32 年大塚山道了堂下に「絹の道碑」を建立し除幕式を行いました。この頃から和製「シルクロード」として脚光を浴びるようになりました。八王子市教育委員会は昭和 47 年、御殿橋のたもとから「絹の道碑」前までの道を史跡「絹の道」に指定し、さらに、この道沿いにあったかつての鎧水商人八木下要右衛門（石垣大尽とよばれていた）の屋敷跡を発掘調査し、平成 2 年「絹の道資料館」を建設しています。当時の面影を残す未舗装の峠道は文化庁の「歴史の道百選」にも選定されています。常緑樹のトンネルと石ころだらけの道に、ひと足踏みこむと、荷車のきしむ音がそこはかとなく漂う「浜街道」がありました。

編集後記

3 月 11 日、東日本大震災が発生したなかで、23 年度がスタートいたしました。被災された方々には心よりお見舞い申しあげます。

第 85 号の発行にあたり、ご寄稿いただきました皆様に感謝申しあげます。地震と津波・原子力発電所の事故等で多くの方々が被災され、いまだに避難生活を余儀なくされている現状を見ますと、一日も早い復興を願わざにはいられません。

（広報部一同）

表紙写真説明

7 月 18 日（月）いちょうホールで開催された、作文コンテスト入選者発表会のあと開かれた「中学生による音楽の集い」では、石川中学校の吹奏楽のほか、鎧水中学校による合唱、由井中学校による三味線の合奏がそれぞれ、いちょうホールを埋め尽くす多くの市民の皆さんに披露されました。日頃の練習の成果が遺憾なく発揮され、会場からは、演奏が終わる都度、割れんばかりの拍手が鳴り止みませんでした。

東日本大震災により何かと暗いニュースが続いているましたが、折りしも、当日早朝サッカーナでここジャパンのワールドカップ優勝の報が伝わり、これにつづく八王子の「社会を明るくする運動」に文字通りふさわしい、明るく、見事な、また、楽しい演奏会でした。

平成 23 年 8 月 15 日発行

発行 八王子地区保護司会
編集 広報部
電話 042-664-2268

本紙は自然保護のため再生紙を使用しております。